洗足学園音楽大学
SENZOKU GAKUEN COLLEGE of MUSIC

洗足学園音楽大学
ワールドミュージックコース
ウィンターコンサート2022

2022年12月3日(土)

15:00 開演 (14:30 開場)

シルバーマウンテン 1F

洗足学園音楽大学・大学院

ごあいさつ

本日は、洗足学園音楽大学ワールドミュージックコース ウィンターコンサート2022 にお越し頂き、誠にありがとうございます。

ワールドミュージックコースは、2018年に設立されたばかりの新しいコースです。普段は、専攻楽器を通して、世界の様々な音楽の表現を学んでいます。本コンサートでは、学生一人ひとりが専攻楽器に向き合い、独奏をメインにお送りします。

開催にあたり、様々な形で御指導、御協力いただきました先生方をはじめ、準備等に関わってくださった方々、そして、ご来場頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。

出演者一同、日ごろの成果を披露するこのコンサートに向かって、精一杯練習に励んで参りました。最後までごゆっくりお楽しみいただけましたら幸いでございます。そして、今後ともワールドミュージックコースをよろしくお願い申し上げます。

ワールドミュージックコース学生代表
小林 愛美 (学4)
村山 実裕加 (学2)
伊藤 陽夏 (学2)

～新型コロナウイルス感染症拡大防止のお願い～

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行に
ご協力くださいます ようお願い申し上げます。

・出演者とのご面会は楽屋口、ロビーを含め全面でご遠慮いただいております。
尚、出演者への花束・プレゼントもお控えくださいますようお願い
申し上げます。

・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いている
ドアから混雑を避けて入退場をお願い申し上げます。

・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願い
申し上げます。

・客席やロビーでのご飲食はお控えくださいますようお願い申し上げます。

・大声や対面での会話はお控えくださいますようお願い申し上げます。

・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供
する場合がございます。

Program

F.タレガ ／ 椿姫の主題による幻想曲
Gt. 伊藤 陽夏 (学2)

L.v.ベートーヴェン ／ マンドリンとピアノのためのソナチネ　WoO 43a
Mand. 村山 実裕加(学2)　　Pf.山田 武彦(本学教員)

J.S.バッハ ／ 無伴奏チェロ組曲第 1 番より 前奏曲
G.サンス ／ カナリオス
Gt. 石川 菜々子 (学3)

A.ピアソラ ／ ロ・ケ・ベンドラ
Bn. 片山 柊 (学3)

Y.ブラウン ／ マンドリンとギターのためのソナタより 第一楽章
Mand. 島田 龍輔 (学3)　　Gt. 中根 康美 (本学教員)

王 建民 ／ 天山風情
二胡 楊 江虎 (学3)　　Pf. 山田 武彦 (本学教員)

丸本 大悟 ／ AZZURRO マンドリン独奏のための
Mand. 小長井 翼 (学4)

L.ブローウェル ／ ラ・グラン・サラバンダ
Gt. 小林 愛美 (学4)

♪ 休 憩 ♪

E.バルベッラ ／ 2台のマンドリンのための6つの2重奏曲 作品3-2
Mand. 島田 龍輔 (学3)　　Mand. 村山 実裕加 (学2)

E.グラナドス ／ オリエンタル
Gt. 小林 愛美 (学4)　　Gt. 石川 菜々子 (学3)

E.サティ ／ ジュ・トゥ・ヴ
二胡 楊 江虎 (学3)　　Gt. 伊藤 陽夏 (学2)

藤井 敬吾 ／ マンドリンとギターのためのソナタより 第一楽章
Mand. 小長井 翼 (学4)　　Gt. 小林 愛美 (学4)

F.タレガ ／ 椿姫の主題による幻想曲

フランシスコ・タレガ（1852-1909）は、スペインの作曲家、ギター奏者。20世紀のクラシックギターの近代的な奏法を確立し、大きな影響を及ぼしました。この曲は、ヴェルディの名作オペラ「椿姫」の中からいくつかのテーマを選んで1曲にまとめ上げたギター独奏曲です。

ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）は、イタリアの作曲家。1853年に発表したオペラ「椿姫」は、18世紀パリの社交界を舞台にした高級娼婦のヴィオレッタの愛と哀しい運命を描いた作品です。
この作品は、その第一幕前奏曲及び劇中に歌われるアリアに基づいて作曲されました。原曲の華やかさや悲しみなどをギターの音色を生かした様々な奏法を取り入れて表現しています。お楽しみください。（伊藤 陽夏）

L.v.ベートーヴェン ／ マンドリンとピアノのためのソナチネ WoO 43a

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827) は、ウィーン古典派音楽の代表的な作曲家です。1796年、演奏旅行でプラハを訪れたベートーヴェンは、マンドリンを嗜んでいたクラリ伯爵令嬢ヨゼフィーネのために、マンドリンと鍵盤楽器のための作品を複数書きました。現存する4曲の他に、少なくとも、あともう1曲ヨゼフィーネが所有していたと言われています。どの曲も親しみやすく、今ではマンドリン奏者の重要なレパートリーとなっています。

今回演奏する「ソナチネ　WoO 43a」は、4曲の中で唯一の短調で、6/8拍子、アダージョで書かれています。ゆったりと落ち着いたハ短調の主部、中間部で明るく陽が射すようにハ長調に転調したのちに主部へと戻る三部形式の曲です。

主部のもの悲しいフレーズはマンドリンのどこか切ない響きが相まって心に沁み渡り、中間部はマンドリンの可愛らしい音色が際立ちます。どうぞお楽しみください。（村山 実裕加）

J.S.バッハ ／ 無伴奏チェロ組曲第１番より 前奏曲

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は、ドイツ、アイゼナハ出身の作曲家、オルガニストです。バロック音楽の有名な作曲家の一人であり、別名「大バッハ　音楽の父」とも言われています。

チェロのための独奏用に書かれたこの作品は、全部で6曲存在します。６つの組曲はそれぞれ前奏曲に始まり、アルマンド、クーラント、サラバンド、ジーグ等で構成されています。 20世紀を代表するチェロの巨匠、パブロ・カザルス(1876-1973)によって再びこの作品にスポットライトが当てられました。第1番の前奏曲は、チェロの深い響きの低音から始まる大変有名な作品です。原曲はト長調ですが、本日はクラシックギター用に作られたニ長調で演奏致します。

（石川 菜々子）

G.サンス ／ カナリオス

ガスパル・サンス(1640-1710)は、スペインの作曲家、オルガニスト、ギタリストです。カナリオスとはカナリア諸島に由来のあるとされる舞曲で原曲は5弦のバロックギターのために作曲されました。曲中、3/4拍子と6/8拍子が交互に出てくるようになっており、明るい旋律でリズミカルな曲調です。お楽しみ下さい。（石川 菜々子）

A.ピアソラ ／ ロ・ケ・ベンドラ

1954年発表されたこの作品は、故郷マルデルプラタ市の作詞作曲協会に捧げられています。

当時のタンゴの概念を超えた大作で、下降半音階による前奏から始まり、ミロンガの重い感じを生かしながら低音部でシンコペーションのリズムを打ち出した第1部、対旋律が主役の２部からなっています。新しい道を開いた傑作として、今日に至るまでさまざまな奏者によって演奏されています。（片山 柊）

Y.ブラウン ／ マンドリンとギターのためのソナタより 第一楽章

イェヘズケル・ブラウン(1922-2014)は、ブレスラウ(現:ポーランド・ヴロツワフ)生まれのユダヤ人作曲家です。2歳の頃、両親と共にパレスチナへ移り、その後イスラエル音楽アカデミーでアレクサンダーボスコビッチに作曲を師事しました。
また、テルアビブ大学で西洋古典学の修士を取得しました。1966年にテルアビブ大学の教授になり、引退まで、以後その地で教鞭を取りました。彼の教会音楽とユダヤ人の民族音楽への関心は多くの作品に見られる共通点です。

彼はマンドリンが入った作品を3作品残していて、この作品はその中で最も小さな編成の楽曲です。Fantasia-Aria-Variationeの3楽章からなりますが、今回は1楽章のみ演奏します。（島田 龍輔）

王 建民 ／ 天山風情

王建民は、1956年中国無錫市生まれの作曲家です。天山風情は、1993年に二胡とピアノのために作曲され、全曲は、中国の西方に住む民族の音楽の特徴を表わしています。例えば、旋律は短音階が基本となりながら、増二度の個性的な音程が随所に現れます。また、7／8拍子ので軽快に踊られるかのような部分もあり、中央アジアの民族弦楽器・ドンブラの音色に似せた奏法も見られます。これらの要素が、タジク民族の音楽の雰囲気を強く表わすと同時に、独奏楽器としての二胡の演奏技術が最大限に発揮されるように書かれています。

（楊 江虎）

丸本 大悟 ／ AZZURRO マンドリン独奏のための

丸本大悟(1979-)は、大阪府出身の作曲家、マンドリン奏者です。AZZURRO for Mandolin Soloは、マンドリン奏者である堀雅貴氏に献呈されました。曲名にもある”azzurro”はイタリア語で”青”を意味しますが、この曲は明るく爽やかな”青”をイメージして作曲されたそうです。

和音から始まりアルペジオ、トレモロ、ハーモニクス、同じ弦で二つの異なる音を出す奏法など、様々な奏法を駆使して演奏する曲となっています。

マンドリン本来の音色はもちろんのこと、どんな奏法が用いられているかもお楽しみいただけたらと思います。

（小長井 翼）

L.ブローウェル ／ ラ・グラン・サラバンダ

レオ・ブローウェル（1939-）は、キューバの作曲家・ギタリスト。アメリカのハートフォード大学、ジュリアード音楽学校にて音楽を学び、これまでにキューバ・南米等の伝統的なリズムを用いた作品や、前衛音楽、映画音楽など数多くのギター作品を残しています。80歳を超える現在も現役で作曲活動を続けています。

La Gran Sarabanda「ラ・グラン・サラバンダ」は、毎年アメリカのインディアナポリスで行われる、国際ギターコンクール「GFA Competition」の課題曲として、2018年に作曲されました。現在も同コンクール出場者が、自由曲として選曲することもあり、その後もブローウェル自身が、拡張バージョンを作曲するなど、2018年のコンクールが終わった今でも世界中のギタリストに愛されている作品です。本日は拡張バージョンを演奏致します。

冒頭は、4拍子の荘厳な序奏から始まり、それに続くように「テーマ」が現れます。このテーマは、17世紀イタリアで大流行した「ラ・フォリア」の和声からインスピレーションを受けており、曲名「グラン・サラバンダ」の通り、リズムは威厳のあるサラバンドの3拍子が採用されています。

≪第1変奏≫
Presto：テーマの緩徐なテンポとは打って変わり、急速な上行音型のアルペジオによって曲が展開していきます。

≪第2変奏≫
Maestoso：marcato il canto（歌をはっきりと）の指示があり、威厳のあるサラバンドのリズムが忠実に現れた変奏。
Glosas de Merchi：アルペジオによる変奏。後半の独特なアクセントが聴きどころです。
Sarabanda trunca：truncaは、「切り離された」の意。サラバンドの静粛かつ厳かな空気感はそのままに5/8拍子で書かれており、まさに字足らずなサラバンドの変奏。
Double：幅広い音域と5連符･6連符が混在し、波打つように曲が展開していきます。

≪第3変奏≫
Agitato：再び勢いのある変奏が現れます。南米のリズムを彷彿とさせるような低音のテーマが特徴。

≪第4変奏≫
テーマがオクターブで現れ、6/8、5/8拍子で書かれています。その後加速し、D.S.で再び第1変奏へと繋がります。そして曲はCodaに向かい盛大なフィナーレを迎えます。

※Glosas de Merchi、Sarabanda trunca、Doubleは、拡張バージョンとして後に付けられた変奏。

（小林 愛美）

E.バルベッラ ／ 2台のマンドリンのための6つの2重奏曲 作品3-2

エマニュエレ・バルベッラ(1718-1777)は、ナポリで活躍したヴァイオリニスト・作曲家です。幼少期から父親よりヴァイオリンを学び、アンジェロ・ザーゴと(タルティーニの弟子である)パスクアーレ・ビーニにヴァイオリンを、ミケーレ・カッバローネ、レオナルド・レオ、そして、(不確かながら)ボローニャのマルティーニ神父に作曲を師事しています。1753年にナポリのヌオーヴォ劇場のヴァイオリン首席奏者になり、数年後にはナポリ王宮の礼拝堂で、1761年にはサンカルロ劇場で演奏し始めました。また、音楽院で教育にも携わっていました。

音楽見聞録で知られるチャールズ・バーニーは、1770年10月にナポリに訪れた際にBarbellaとその演奏に接し、「私のこれまでに知った人の中で最も親切な人間」であり、「彼のヴァイオリンの音と同じように親切な(sweet)」性格であると評しています。

2台のマンドリンのための6つの2重奏曲は、1770年代にパリで出版された楽曲です。全体を通して、コメディアデッラルテのストックキャラクター(サビーノ、プルチネッラ)や、キリスト教から見て異教の神(バッカス、プルートの名前を引用し、楽譜の合間に詳細にその情景を表現しています。

"魔法使いのサビーノとプルートが妃を従えて登場するフランス風パントマイム。魔法使いは命令を下し、従者全員を軍事訓練に送る"(第二楽章より)などからは、彼の豊かな想像力を垣間見ることができます。

今回演奏する第2曲は、以下の3楽章で構成されています。
第1楽章 Allegro con moto
第2楽章 Largo
第3楽章 Allegretto con moto

（島田 龍輔）

E.グラナドス ／ オリエンタル

エンリケ･グラナドス･イ･カンピーニャ(1867-1916)は、スペイン･カタルーニャ地方、レリダ出身の近代音楽の作曲家･ピアニストです。幼い頃より音楽の才能を表し、バルセロナ、パリにてピアノと作曲を学んだのち、バルセロナ帰国後はピアニスト･作曲家として活動。同じくスペイン出身のイサーク･アルベニス(1860-1909)と共に、スペイン国民楽派を代表する偉大な作曲家であり、アルベニスの音楽はスペインの民族的な要素が非常に濃い作風であるのに対して、グラナドスの音楽はより幻想的･ロマンティックな性格の作品が多く、フランスの作曲家ジュール・マスネ(1842-1912)からは「スペインのグリーグ」と称されました。

1892年、25歳から数年に渡りピアノ独奏の為の組曲「スペイン舞曲」を作曲し、彼の出世作となる。全12の作品にはそれぞれタイトルが付けられていますが、本人が付けたのは第4番「ビリャネスカ」と第7番「バレンシアーナまたはカレセーラ」のみであり、他は出版社により付けられたものです。

本日演奏する「オリエンタル」は、「スペイン舞曲」の中の2番目にあたる作品で、今日ピアノやギターで演奏されています。タイトルの「オリエンタル」は8～15世紀の間、スペインの南を支配していたイスラムのことを指します。oriental(東洋の、東洋風)の文字通り、スペインから見て東側に位置するアラブやイスラムの音楽に近しい、異国情緒溢れる幻想的な雰囲気が感じられる曲です。三部形式になっており、冒頭はアルペジオから始まり、哀愁を感じさせる旋律が流れるように調和して入ります。

元々はピアノ独奏の為に作曲されましたが、本日はギター二重奏での演奏をお楽しみください。

（小林愛美、石川菜々子）

E.サティ ／ ジュ・トゥ・ヴ

エリック・サティ（1866-1925）は、フランスの作曲家です。1900年に「スローなワルツ女王」と異名をとったフランスの歌手、ポーレット・ダルティ(1871-1939)のために書かれたシャンソンです。歌詞には、女性版、男性版とあるのが特徴。のちに、サティ自身がピアノ独奏用に編曲しました。歌曲は、単純な三部形式ですが、ピアノ独奏版には、トリオが加わり複合三部形式になっています。「あなたが欲しい」という邦訳になり、とても優美なワルツの曲調です。

本日は、二胡とギターで演奏致します。お楽しみください。

（伊藤 陽夏）

藤井 敬吾 ／ マンドリンとギターのためのソナタより 第一楽章

作曲者の藤井敬吾(1956-)は、北海道出身のギタリスト・作曲家で、現在は大阪音楽大学にてクラシックギター特任教授を務めています。

マンドリンとギターのためのソナタは、1999年に作曲された作品で、第一楽章 Allegro impetuoso、第二楽章 Andante (Dreaming)、第三楽章 Scherzando、第四楽章 Vivoの全四楽章からなります。中でも第四楽章は、同氏の作品である「地中海協奏曲」をもとに作曲されています。

今回演奏する第一楽章は、3/4拍子から始まり、9/8や7/8など様々な拍子で構成されています。中間部のマンドリンのソロパートに用いられる、特殊奏法である滑走アルペジオ、その上に加わるギターのさながらロックのようなメロディにご注目ください。

（小長井 翼）

Profile

中根 康美（なかね やすみ）
ドイツ国立ケルン音大卒。東京国際ギターコンクール入賞。
文化庁の助成によるスクールコンサートや、NHK教育テレビに出演するなど、ソロ、アンサンブル、歌曲伴奏など幅広いジャンルで活動。 CD「吉松隆 優しき玩具」を現代ギター社より、フルートの故田中潤一氏との「タンゴの歴史」をアルケミスタより、ケルンギターカルテット「耳に残るは君の歌声」「君住む街角」をコジマ録音より各リリース。GG学院、洗足学園音楽大学客員教授。

山田 武彦（やまだ たけひこ）
東京藝術大学大学院修了、パリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科首席卒。数多くの演奏者と共演、ソリストのパートナーとして常に絶大な信頼を得ている。またユニークな演奏会企画を立案および参加し各地にて好評を得る。

Member

洗足学園音楽大学ワールドミュージックコース

4年 小長井 翼 （マンドリン専攻）
小林 愛美 （クラシックギター専攻）

3年 石川 菜々子 （クラシックギター専攻）
片山 柊 （バンドネオン専攻）
島田 龍輔 （マンドリン専攻）
楊 江虎 （二胡専攻）

2年 伊藤 陽夏 （クラシックギター専攻）
村山 実裕加 （マンドリン専攻）

ワールドミュージックコース ウィンターコンサート2022

■コンサート企画 アカデミックプロデューサー：大江 千佳子
■指導教員：中根 康美　山田 武彦
■学生インスペクター：小林 愛美　伊藤 陽夏　村山 実裕加　小長井 翼
■アカデミックコーディネーター：大島 健太郎

洗足学園音楽大学

SENZOKU GAKUEN COLLEGE of MUSIC